

在宅介護と 施設介護の 費用比較

— どこで、誰が、どう支えるのかを考える —

◎ 目的

- 在宅介護と施設介護の費用構造を正しく理解する
- 本人・家族の状況に応じた判断材料を整理する
- 介護相談に必要な基礎知識を身につける



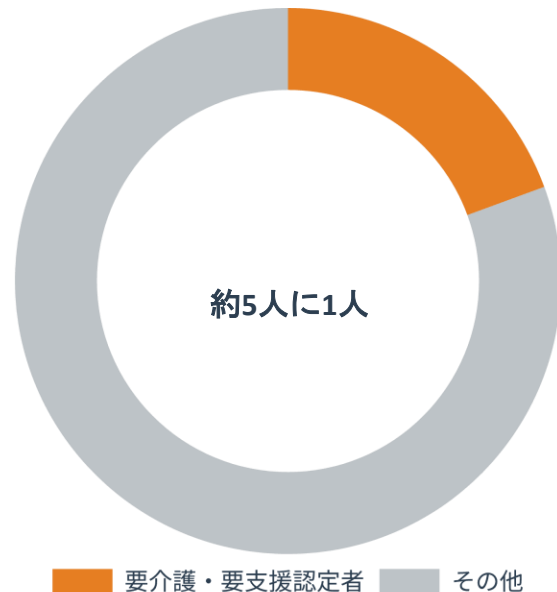
介護は「突然」始まる

日本では高齢化が急速に進行しており、
ある日突然、介護が必要になるケースが多
くあります。

65歳以上の要介護・要支援認定率

19.4 %

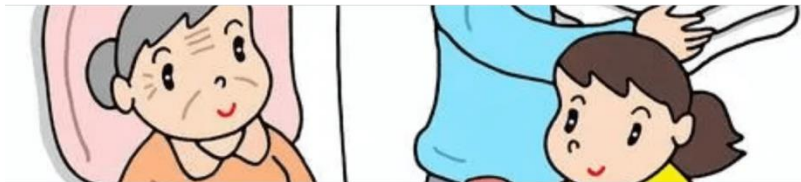
約5人に1人が認定を受けています



介護の主な選択肢

1 在宅介護

- ✓ 自宅で生活しながら介護サービスを利用
- ✓ 家族の関与が大きい



2 施設介護

- ✓ 介護施設に入居して生活
- ✓ 専門職による24時間体制の介護



どちらが適しているかは、以下の要素によって異なります



本人の希望



家族の介護力



要介護度



経済状況

在宅介護の費用構造

主な費用項目

 **介護サービス利用料**
介護保険適用後の自己負担（1～3割）

 **医療費**
定期的な通院・薬代、訪問診療など

 **生活費**
食費、光熱費、日用品費など

 **その他**
住宅改修、福祉用具の購入・レンタル

月額費用の目安

介護保険サービス費用のみ（平均）

4.8万円

※要介護度や利用サービスにより個人差あり

+

生活費・医療費を含めた総額目安

8～15万円

※多くのケースでこの範囲になります

補足：4.8万円は介護保険サービスの自己負担額平均です。生活費・医療費は別途必要になります。

在宅介護の メリットと注意点

😊 メリット

- ✓ 住み慣れた自宅で生活できる
- ✓ 比較的費用を抑えやすい
- ✓ 本人の生活リズムを維持しやすい

⚠ 注意点

- ！ 家族の身体的・精神的負担が大きい
- ！ 介護離職のリスクがある
- ！ 要介護度が重くなると在宅継続が難しくなる

引用元：厚生労働省「介護離職防止対策に関する資料」



施設介護の費用構造

主な施設の種類

- 特別養護老人ホーム（公的施設）
- 介護老人保健施設
- 有料老人ホーム（民間施設）

有料老人ホームの費用目安

月額費用

15～30万円程度

入居一時金

数十万～数百万円

※施設により大きく異なります

介護施設の種類

公的施設

特別養護老人ホーム
(特養)

介護老人保健施設
(老健)

民間施設

有料老人ホーム
(介護付/住宅型)

サービス付き
高齢者向け住宅

施設介護のメリットと注意点

メリット

- 24時間体制の介護が受けられる
- 家族の介護負担が大幅に軽減される
- 医療・介護の連携が取りやすい

注意点

- 在宅介護より費用が高くなりやすい
- 施設の空き状況や地域差が大きい
- 入居時にまとまった資金が必要な場合がある

在宅介護と施設介護の費用比較

	在宅介護	施設介護
 月額費用	8万～15万円 程度	15万～30万円 程度
 初期費用	ほぼ不要	入居一時金が必要な場合あり
 家族負担	大きい	小さい
 生活の自由度	高い	在宅より低い

どちらを選ぶべきか（考え方）

✔ 判断のポイント

♥ 本人の希望

🤝 家族の介護力・支援体制

🏠+ 要介護度

¥ 経済的余力

⌛ 介護が短期か長期か

柔軟な考え方が重要

介護の形は途中で切り替えるケースも多くあります。
最初から一つに決め切る必要はなく、状況の変化に応じて柔軟に対応しましょう。



まとめ

- ✓ 在宅介護は費用を抑えやすいが、
家族への身体的・精神的負担 が大きい
- ✓ 施設介護は費用は高めだが、
専門職による 24時間の安心感 が高い
- ✓ 早めに情報を整理しておくことで、
将来の選択肢 が大きく広がる



最も重要な視点

お金 ・ 家族 ・ 本人の希望
を総合的に考える

主な引用元一覧

厚生労働省：「介護保険事業状況報告」「介護保険制度の概要」「高齢者向け住まいの現状」「介護サービス利用の実態」

生命保険文化センター：「生命保険に関する全国実態調査」「介護にかかる費用に関する調査」